

直掛け被覆てん茶栽培における「やぶきた」一番茶に適した被覆条件

収量と品質を考慮すると85%遮光資材を用いて2葉期までに被覆を開始し20日程度の被覆が適する

背景・目的

- ・国内外での抹茶需要の増大による、原料てん茶の生産拡大
- ・本県ではてん茶生産の栽培指針が未確立
- ・直掛けてん茶栽培における適正な被覆条件を検討

成果の内容

「やぶきた」一番茶での被覆条件(図1)

- ・2葉期までに被覆を開始, 被覆期間は20日程度
- ・遮光率85%※の資材を使用

※)試験ではパロンスクリーンB&S(小泉製麻株式会社製)

「やぶきた」一番茶での摘採適期判断指標(図2)

- ・新芽のクロロフィル量と被覆開始後からの日平均気温の積算温度と相関が高い
- ・積算温度が300日度となる頃を目安に摘採する

〈補足〉

・図1は令和2~4年の同一被覆条件の平均値(85%遮光は令和4年のみ)

・図2の積算気温は直掛けてん茶「やぶきた」一番茶での2葉期被覆開始日を基準(0日度)として翌日からの平均気温を積算した(近隣アメダス)

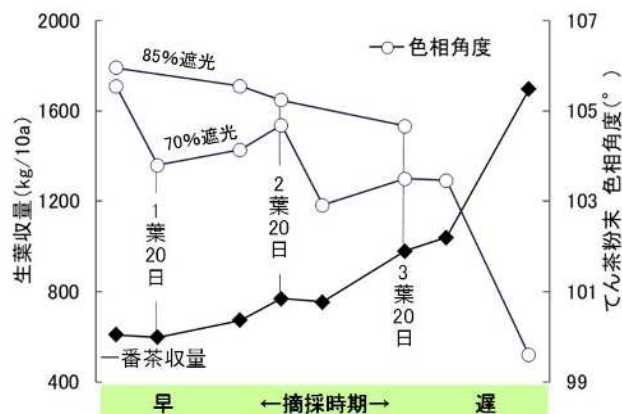


図1 被覆条件の違いによる生葉収量とてん茶品質の関係(やぶきた, 一番茶)

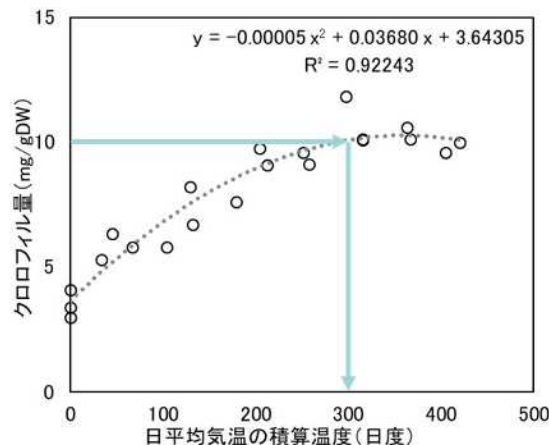


図2 直掛け被覆てん茶の2葉期被覆開始後からの日平均気温積算温度とクロロフィル量との関係

期待される効果

直掛け被覆てん茶栽培での
適期被覆・適期摘採によって

てん茶の高品質化を実現



てん茶生産の拡大が図られる

- 普及対象・範囲
県内のてん茶生産者及び茶業技術員

鹿児島県農業開発総合センター
茶業部栽培研究室

(委託プロジェクト研究)